

# Newsletter No.30

## ●サッカーとスポーツ工学 浅井 武 (山形大学教育学部)

## ●部門長就任挨拶 第80期部門長 近藤 孝広 (九州大学)

第80期機械力学・計測制御部門の部門長への就任に際しまして、一言ご挨拶申し上げます。皆様もご承知のように、ここ数年来、日本機械学会本部と部門との関係が見直されて、とくに財政面での大きな改革が進行しつつあります。そのようなときに規模の面でも活動度の面でも評価の高い当部門の部門長を拝命することになり、責任の重さを痛感しております。

今回の改革は、会員数の減少に伴う学会本部の財政事情の悪化に起因するもので、部門交付金の各部門への配分方式の見直し（部門評価点に基づく部門活動度を考慮）と、部門活動に関わる業務委託料の徴収が主な柱となっています。さらには、来年度から部門交付金の計算方法を現在の定額方式（年間6,000万円）から定率方式（会費収入総額の12.5%相当額）に改めたいとの提案が理事会からなされており、部門協議会で議論されています。この提案が認められ、今後とも会員数の減少傾向が続くとすれば、部門交付金の減額は避けられません。このような状況の中で活発な部門活動を保証する方策を探ることが、今期の運営委員会に課せられた責務であると考えております。

幸い当部門は、歴代部門長をはじめとする部門登録会員の皆様方のご努力により、現在のところ財政的に多少の余裕があります。また、部門活動度に関する評価の面でも高い評価をいただいております。このように財政面でも活動度の点でも余裕のあるうちに、更なる飛躍のための行動を開始しなければならないと考えています。その第一歩として、今期は次の2つの課題に重点的に取り組むつもりであります。

### (1) 部門財政基盤の確立

現在の厳しい経済情勢のもとでは高収益を期待できる行事を企画することは非常に困難です。そこで、部門最大の行事であるD&D講演会をさらに強化する必要があります。その一環として、OSや特別行事の企画を広く募り、自らが作り上げる講演会というスタイルをより徹底したいと思っております。一方、部門登録会員へのサービス低下を招かない形で、可能な限り活動経費の削減を追求しなければなりません。具体的には、ニュースレターのPDF化による郵送費の削減、分科会・研究会補助金の見直し等について検討を開始したいと考えています。

### (2) 若手技術者・研究者への積極的なサポート

部門が今後とも高い活動度を維持するためには、部門の関連分野を専門とする若手技術者・研究者が継続的に育って来なければなりません。それには、これまでに培われた技術や学問的知識を正確に伝承するとともに、今後解決すべき課題を魅力ある形で提示することを通して、部門の将来を担う優秀な人材を数多く我々の分野に惹き付けることが必要です。講演会や講習会等の様々の機会を捉えて、そのような場を設定したいと考えています。また、部門の運営に関しても、若手運営委員を責任のあるポジションに積極的に起用して、実質的な仕事を担っていただく態勢を整えたいと思っております。

最後に、部門の皆様方には上記のような事情をご賢察いただき、部門の将来に向けた建設的なご提言やご批判をお願い申し上げますとともに、各種行事へのご参加と部門運営へのご協力を切にお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

●部門長退任のご挨拶 第79期部門長 森下 信（横浜国立大学）

部門長を退任するにあたりましてご挨拶申し上げます。機械力学・計測制御部門は、ご承知のように日本機械学会の数ある部門の中で最大の部門のひとつであり、その部門長の職務を遂行するということがどれだけストレスを受けるか肌で感じた一年でした。歳を重ねるほどに時間の経過が短く感じられるようになってきましたが、今年ほど速く感じたことはありませんでした。日本の大学では外部評価を受けることが最近では当然のように語られていますが、部門も例に漏れず学会本部から活動度に関する評価を受けました。その結果、活動度は最も高い部門のひとつと評価され、部門長としては部門運営委員会委員の皆様並びに部門登録者の皆様のご協力の賜であると思っています。日頃のご協力に対して改めてお礼申し上げる次第です。特に、部門幹事をお願いいたしました上智大学・曄道先生のご協力に関してはお礼の申し上げようもないほど感謝しております。

大学に籍を置くものはそれほど痛切に感じることは少ないのかもしれませんが、昨今のように世の中の景気の低迷が続きますと、企業の技術者が学会に参加する余裕がなくなるという状況も現れてまいります。それでも、数多くの企業の会員の方々にボランティアでご協力をいただきました。学会活動は参加するものが負担するというのはある意味で当然かもしれませんが、さらに多くの会員の皆様に少しずつ作業の負担をお願いできれば有り難いと考えます。また、部門活動が成熟期に入るとマンネリ化が起こります。これを避ける意味でも若手研究者および技術者の積極的参加を期待したいと思います。

4月の初めに、イタリア北部の保養地であるコモという町で国際会議に参加しました。歴史を重ねた町並みを散策するほどに心地よく、時間がただゆっくりと流れてゆくのが感じた1週間でした。そのようなゆとりのある時間に浸って物事を考えると別の見方ができるということも新鮮な発見でした。今後は部門活動を陰ながら応援する立場で学会活動に参加したいと考えています。部門のさらなる発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。

●在外研究報告 ISVR, University of Southampton 雫本信哉(九州大学大学院知能機械システム部門)

2001年3月からおよそ一年間、英国のSouthampton大学、Institute of Sound and Vibration Research(ISVR)に滞在しました。Southamptonは、英国の首都Londonから南西におよそ110km(70mile)のところに位置する古くからの港町で、その昔、タイタニック号が出航した港として有名です。海が近いこと、南に位置することから、英国の中でも最も温暖な地方であり、冬でも雪がほとんど降りません。しかも、私が滞在した年は300年間(!)で一番の暖冬とのことで本当に寒かったのは年末の1週間だけでした。

ISVRは、世界的に有名な音響および振動の研究機関で、英国の外部評価機関による評価(Research Assessment Exercise; RAE)で最高の5\*(five star)を私が滞在中に獲得しました。最高の評価を得たことで、研究資金も重点的に配分されるため、今後ますます活発な研究活動が行われるでしょう。優秀なスタッフと潤沢な資金によりさらに成果が挙げるという理想的な循環の中にある研究施設であると言えます。ISVRではNelson教授にお願いして、私の受け入れ教官となっていただきました。Nelson教授には、4年程前に1週間ISVRを訪問した際にも便宜を図っていただき、その縁で、今回の一年間の滞在中もお世話になったわけです。Nelson教授は振動、音響制御の分野の第一人者であり、その業績と、暖かい人柄で、ISVRで最も人望のある教授の一人です。予定外だったのは、私が行ってすぐに、その人望のためかNelson教授がISVRのDirector(ISVRの長)になった(なってしまった)ことです。Nelson教授がDirectorになったことは、喜ばしいことでしたが、ただでさえ多忙なNelson教授が、Directorになったため、自分の時間などほとんど無くなってしまい、その結果、滞在期間中、研究の打ち合わせなどが、あまりできなくなってしまいました。

私は、5~6人の共同プロジェクトに配属され、航空機エンジンのファンノイズの低減を目的とした研究をすることになりました。私が担当するのは、エンジンの吸い込み側内壁面に数本のロッドを出し入れできるようにして騒音を低減するという実験的な検討です。ファンノイズは気流の乱れによって発生するため、ロッドの出し入れにより積極的に気流を乱すことで、発生する騒音を低減できるのではないかとというのが、このテーマの意図するところです。当初はまだ実験装置が完成しておらず、ミーティングを重ねて実験装置の詳細を決定しました。順調に進めば、8月頃には実験にかかれるはずだったのですが、装置の作成を依頼した会社がなかなか装置を完成できず、しかたなくシミュレーションで効果を確認することになりました。シミュレーションの段階では、ある程度効果があることが確認できたのですが、それは、あくまでも限られた条件下でのシミュレーションにすぎず、はやく実験がしたい、実験したい、実験、実験...とと思っているうちに、時間は経ち、悲しいことに、実験装置の完成をみることなく、私は帰国することになってしまったのでした。実験が満足にできなかったことは残念なことでしたが、私の参加したプロジェクトの構成メンバーの国籍が多彩であったことが、非常に良い刺激になりました。ISVRの著名な研究者と近しく接することができただけでなく、このように、多くの国の若い研究者と友人になれたことは、私にとってかけがえのない大切な経験となりました。今後、世界のどこかで彼等と再会できることを願っています。

以下、英国での日常生活で感じたことを思いつくままに記します。私は、英国での食生活にはまったく期待していなかったのですが、実際に生活してみると、スーパーなどでは世界各国からの食材が豊富に陳列され、それらが、いずれも美味しいことに驚かされました。英国産の食材も、牛乳、チーズ、野菜といった酪農、農業生産品など、大変美味しく、日本ではなかなか手に入れない品質であると思います。また、朝食にはさすがに力が入っているようで、朝食用のシリアル類、トーストにつけるジャム、蜂蜜の種類の高さには圧倒されました。日本ではスーパーの陳列棚の片隅に追いやられているシリアル類が、通路の片側全部(上から下まで!)を占領しているのを見た時は笑ってしまいました。

英国は、いまだに従来の単位系がしっかりと残っています。ただし、商店などで物を売る際には、SI単位による表示も並記することになっているようで、それを守らず、(重さを)ポンドによる表示のみにしていた店主が警察に逮捕されるといった事件もあったようです。牛乳もpint(ポイント)という単位(1pintが約0.57リットル)で売られています。牛乳などはまだ良いのですが、距離の表示が基本的にマイル表示なのが、ちょっと困ります。1マイルは約1.6kmです。制限時速もマイル表示ですが、これは、

車の速度メーターもマイル表示されている (km の表示も小さくならんではいますが) ので、特に換算する必要はありません。問題は、高速道路などで、目的地までの距離をマイルで表示された時です。出口まで「1m」などと書いてあると、一瞬「いちめーとる???'」と思ってあせります。良く考えれば、高速道路で、出口まで1メートルの表示をだしても意味が無い(それを見たときには通り過ぎている)のですが、それでもずっとメートル表示の世界で過ごしていたものとしては、ひとこと言いたくなります。ポンド表示で売っていた個人商店の店主を逮捕するより、こっちの道路表示の方をなんとかしてもらいたいです。

最後になりますが、このような貴重な経験をする機会を与えてくださったみなさまに感謝致します。

## 【講演会・国際会議等のご案内】

### ●第52回理論応用力学講演会のお知らせ 運営委員会委員長 谷 順二（東北大）

第52回理論応用力学講演会が例年のように日本学術会議で開催されます。この会議は日本学術会議の「メカニクス・構造研究連絡委員会」が主催で毎年開催される学際的内容の講演会です。52年前にIUTAM(International Union of Theoretical and Applied Mechanics)の国内委員会の役割を担った日本学術会議の力学研究連絡委員会により様々な学会が共催して始められました。現在では学術会議の中の理論応用力学、構造工学、水力学・水理学、レオロジー、地震工学および計算力学の各専門委員会が連絡委員会に加わって主催しています。

今回は主幹事学会として日本機械学会が担当することになり、その中でも機械力学・計測制御部門が会議運営を行うことになりました。昨年は3日間で500名以上の参加者がありました。昨今の研究の流れをみると、学際的な境界領域に新たな研究の芽を発見できることが多く、このような講演会はさらに意義深いものとなっています。「理論」に限定されることなく、もっと広い意味で「力学」をキーワードとした研究発表を募集しています。既発表の研究成果も受け付けており、異分野の研究者との交流で新たな視点でものをみる機会であると思います。多くの分野の研究を募集します。

詳細は機械学会誌8月号の会告、または、講演会のホームページ(<http://www.jsme.or.jp/nctam/>)をご覧ください。

開催日：2003年1月28日（火）～30日（木）

会 場：日本学術会議（東京都港区六本木7-22-34）

テーマ企画一覧：

[特別講演題目/講師]

数値流体戦略基盤ソフトウェアの開発／小林敏雄（東大）

橋梁の空力弾性振動／松本 勝（京大）

[パネルディスカッションテーマ：4件]

複雑流体／ナノテクノロジーの近未来像／循環型社会における水の問題：水力学・水理学の貢献／来るべき大地震（東海から南海）に備えて－対策の現状と課題－

[オーガナイズドセッションテーマ：24件]

機能性半導体製造プロセスにおける熱物質流動制御／機能性流体とシステム化／混相流のダイナミクス／構造物の最適設計・逆問題／多相物質の凝集構造とレオロジー／マルチボディダイナミクス／確率力学／可積分力学系とその周辺／粉体の物理とその周辺／領域分割法と数値シミュレーションの新展開／ナノテクノロジーの数理の展開／工学・物理に現れる逆問題の解の再構成手法の確立／回転体の振動と健全性評価／スポーツ工学における数理モデルと応用／摩擦が関与するダイナミクス／固体力学におけるオイラー型解法の新展開／LESのモデリングと計算法／せん断乱流中の秩序渦の役割／MEMSによる熱と流れの計測・制御／変形・破壊のメソスコピックダイナミクス／ハイパフォーマンスコンピューティング／マルチスケール解析／数理ファイナンスの展開／回転流体・成層流体－実験室から惑星規模の流れまで－

[一般セッション] 固体力学，流体力学，固体－流体力学，数値解析，その他

講演申込：2002年9月20日（金）までに、本講演会ホームページからお申し込み下さい。

講演論文集原稿：採択された講演については、A4版2ページの版下原稿（およびPDFファイル）を提出いただきます〔2002年11月29日（金）締切〕。その際、整理費2,000円を申し受けます。

詳細問合せ先：実行委員会幹事 森下 信（横浜国大）／電話&FAX(045)339-4090／E-mail：  
mshin@ynu.ac.jp

幹事学会事務局（社）日本機械学会 総合企画グループ（担当：宮原，小阪）／電話  
(03)5360-3505／FAX(03)5360-3509／E-mail：nctam@jsme.or.jp

●第4回スポーツ工学国際会議 The 4th International Conference on The Engineering of Sport

開催日：2002年9月3日（火）～6日（金）

会場：国立京都国際会館（京都市）

概要：ISEA（International Sports Engineering Association）が企画している国際会議で第1回が1996年シェフィールドにて開催されました。以後2年毎に開催され、今回初めて日本にて開催されます。発表される論文数は約150編で、過去最多となりました。日本が世界に先駆けて立ち上げた「スポーツ工学」の活動を紹介する絶好の機会です。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

プログラム：

9月2日（月）ウエルカム・パーティー

9月3日（火）ゴルフ・テニス・自転車・野球・クリケット・キーノート

9月4日（水）スキー・バイオメカニクス <京都バスツアー>

9月5日（木）ゴルフ・水泳・流体力学・キーノート <日本茶・バンケット>

9月6日（金）テニス・シューズ <受賞者発表>

企業展示：9月3日～5日

論文集：口頭発表される論文・解説等113編（海外57編、国内56編）が収録されたB5版約900頁（ハード・カバー）の論文集が、Blackwell Science社から出版され、会議当日配布されます。また、これとは別にポスター発表される論文約40編を収録した第2論文集が印刷され、これも会議当日配布されます。

参加料金：

一般 55,000円（論文集2冊・昼食・バンケット含む）

学生 25,000円（論文集2冊・昼食・バンケット含む）

参加申込：会議専用ホームページより登録用紙（Registration Form）を取得し、事務局へ送付（電子メール可）し、料金は銀行振込等をお願いします。

事務局：〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学 情報理工学研究科宇治橋研究室気付／  
電話 03-5734-2158／FAX03-5734-2641／E-mail: [ujihashi@mei.titech.ac.jp](mailto:ujihashi@mei.titech.ac.jp)  
会議専用ホームページ <http://www.hei.mei.titech.ac.jp/engsport2002/>

## ●Dynamics and Design Conference 2002 開催のお知らせ

### 「集う・論じる・食する・金沢」

協賛：計測自動制御学会，システム制御情報学会，自動車技術会，情報処理学会，人工知能学会，精密工学会，電気学会，電子情報通信学会，土木学会，日本音響学会，日本建築学会，日本原子力学会，日本航空宇宙学会，日本神経回路学会，日本スポーツ産業学会，日本造船学会，日本鉄鋼協会，日本トライボロジー学会，日本ファジィ学会，日本フルードパワーシステム学会，日本ロボット学会，バイオメカニズム学会，日刊工業新聞社

開催日：2002年9月17日（火）～20日（金）

会場：金沢大学角間キャンパス（石川県金沢市角間町）

開催趣旨：

本年も，機械力学・計測制御部門の部門講演会である Dynamics & Design Conference を開催いたします。2002年は金沢大学工学部・佐藤秀紀先生のご理解とご協力により，金沢大学角間キャンパスで開催することになりました。講演会に参加する意義は，まず顔を合わせて議論をすることであると考え，今年のテーマを設定いたしました。例年通り，様々な分野の多くの講演の他に，特別講演をはじめとする多彩な付随行事を企画しております。夏の名残を感じる金沢で知的な刺激と興奮とを共有し，また教育や技術開発に関する問題点について意見交換を行う場としてご活用いただけますよう実行委員会一同ご参加をお待ちしています。

— 付随行事案内 —

#### 【特別講演】

- (1) 日時 9月18日（水）13:00～14:00  
会場 3階A室  
題目 物理と対称性  
講師 愛知大学 教授 坂東昌子氏
- (2) 日時 9月19日（木）14:45～16:15  
会場 3階A室  
題目 酒処石川の秘密  
講師 (株)福光屋 代表取締役社長 福光松太郎氏

#### 【シンポジウム】

板挟みの機械力学教育とその打開  
日時 9月18日（水）14:15～17:30  
会場 3階A室

#### 【学生向け講習会】

機械力学・計測制御の最前線（ミニマムからのアプローチ）No. 2  
それで充分線形解析，おこると怖いぞ非線形現象”  
日時 9月18日（水）13:00～17:15  
場所 会場3階第4室

#### 【フォーラム】

- (1) v-BASE フォーラム 40周年記念行事（9月17日）  
v-BASE フォーラム（9月18日）
- (2) 流体構造連成・音響振動とそのダンピング技術（9月20日）

#### 【部門賞贈呈式・懇親会】

日時 9月19日（木）18:00～20:00  
会場 KKRホテル金沢（金沢市大手町2-32 電話076-264-2255）  
会費 一般5000円／学生3000円

#### 【機器・カタログ・書籍展示】

日時 9月18日，19日  
会場 1階ロビー

—各種費用案内—

●参加登録費：正・准員8000円／会員外12000円／学生員3000円／一般学生4000円

●D&D2002 講演論文集代（アブストラクト集&講演論文 CD-ROM）：

登録者特価（注1）5000 円／会員特価（注2）10000 円／定価 12000 円

（注1） 参加登録者には当日会場受付にて登録者特価で頒布

（注2） 講演論文集のみご希望の方は、会誌4月号告100ページの行事申込書（または <http://www.jsme.or.jp/gyosan0.htm> からダウンロード）1枚に必要事項を記入し、代金を添えてお申し込み下さい。D&D2002 終了後発送いたします。なお、本行事終了後は講演論文集の販売はいたしませんので、入手ご希望の方は本行事にご参加いただくか、または開催前に予約申込みをして下さい。

●フォーラムその他資料集：会期中、参加者に実費販売の予定

プログラム、特別企画など講演会の詳細は <http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2002> をご覧下さい。また、変更事項なども随時ウェブ上にて更新してまいります。



《写真：金沢城石川門》

## 【研究会企画書籍のご案内】

### ●「流体関連振動とそのトラブルシューティング(仮題)」 FIV 研究会企画

FIV 研究会(主査:東京大学金子成彦助教授)では、20年近くにわたって流体に関連した振動現象(Flow Induced Vibration, FIV)に関する研究調査を行い、500件を超える論文情報を収集した。現在研究会内に3つのデータベース構築ワーキンググループ(WG1:直交流による構造振動、WG2:平行流・管内流による構造振動、WG3:気柱共鳴・燃焼振動等)を設置し、解説書としてとりまとめ、技報堂出版(株)より日本機械学会の委託出版物として2002年秋頃に刊行予定(A5版、約250p、並製)である。本解説書では、直交流中、外部平行流中の構造物振動、管内流による配管振動、管内圧力脈動、沸騰凝縮などの熱に関連した振動現象等を取り扱う。設計・トラブル対応・保守管理に使える評価法、事例・対策を記述し、大学院学生の専門教育、若手研究者・技術者の導入書に使用可能なように、現象の捉え方、研究の歴史、文献も詳述する。国内では本分野の唯一の解説書となる見込みであり、国外で発行されている書籍には掲載されていない工業上重要な項目を多数含む予定である。

### ●「シェルの振動と座屈ハンドブック」 シェルの振動と座屈研究会企画

1995年(平成7年)4月にシェルの振動と座屈研究会が発足した。以来当研究会では時代のニーズに応えるべくシェルの振動や座屈に関する基礎研究と実用(応用)研究を統合した新たな研究活動を展開してきた。シェルの理論に関しては、海外ではこれまでも有名な本が沢山出版されている。しかし日本では弾性学や数学に関する本の中で一部紹介されているが、具体例も少なく難解な本が多い。このような状況をふまえ、当研究会は、日頃の研究会メンバーの研究成果、シェルの振動と座屈に関するこれまでの研究成果を集大成して、後世に残るハンドブックの出版を企画した。このたび日本機械学会の委託出版として技報堂出版(株)からシェルの振動と座屈ハンドブックを刊行する運びとなった(9月刊行予定)。

本ハンドブックは3編からなり、第1編は基礎編で、シェルの振動と座屈に関する基礎理論や解析手法を説明している。第2、第3編は応用編で、振動と座屈の具体的な問題を取り上げその解法や解析結果を豊富に示している。本書がこれからシェルの振動や座屈の問題と取り組まれる学生、一般の技術者、研究者の座右の書として大いに役立つことを念願している。

### ●D&D2003のお知らせ 部門長 近藤孝広(九大)

今回のD&D(D&D2003)の日程、会場の予定が、長崎大学の吉武裕先生のご尽力により以下のように決まりましたので、お知らせ致します。

日 程：2003年9月中旬

会 場：長崎大学

活発な講演会にしたいと思っております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。是非初秋の長崎でお会いしましょう！

D&D2003では、オーガナイズドセッション(OS)等のテーマの募集を試みたいと思います。OSを開きたい方は、1)オーガナイズドセッション名、2)オーガナイザー名(複数の方)、3)このオーガナイズドセッションの想定講演数、4)従来のD&DでのOSや、既存の研究分科会・研究会との関係等、を明記の上、9月末日までに部門幹事まで、ご連絡下さい。また、さまざまな企画の募集も試みたいと存じます。詳細は部門ホームページ(<http://www.jsme.or.jp/dmc/>)に掲載する予定です。

なお、最終的な0決定等は、実行委員会にご一任願います。

●分科会設置に関する規定の変更について 部門幹事 高原弘樹（東工大）

学会に設置される分科会の規定が変更になり、従来1種類であった分科会が、部門所属分科会と部門協議会直属分科会の2種類に分類されることになりました。部門所属分科会は、部門が必要に応じて独自に設置する分科会であるのに対して、部門協議会直属分科会は、3部門以上の部門が協力して設置する分野横断型の分科会であることが特徴です（記号上でも部門所属分科会はP-SCD\*\*\*という番号が付くのに対して、部門協議会直属分科会P-SCC\*\*\*となります）。これら2種類の分科会では、設置手続き、運営経費、設置期間等が以下の表のように異なります。

両分科会の設置をお考えの方は、所定の書類を添えて近藤孝広部門長

(t-kondou@mech.kyushu-u.ac.jp)までお申し出ください。なお、設置規定の詳細は学会ホームページ(<http://www.jsme.or.jp/divmanual/kr25.htm>)をご覧ください。所定の書類等につきましては部門協議会直属分科会に関しては日本機械学会の宮原ふみ子様(miyahara@jsme.or.jp)、部門所属分科会は同じく高橋正彦様(masahiko@jsme.or.jp)までお問い合わせください。

	設置手続き	設置期間	運営経費
部門協議会直属分科会 (3部門以上の部門が協力して設置)	関連部門と協議して幹事部門を定め、10月末日までに部門協議会議長に設置申請を行う。	2年間 (延長不可)	部門事業支援資金より支出(金額は部門協議会で決定、最大25万円/年)
部門所属分科会 (部門単独で設置)	所属部門の部門長に設置申請を行う(随時設定可能)。	最大3年間	所属部門より(金額は部門が決定)支出

## 【委員会からのお知らせ】

### ●表彰委員会からのお知らせ

#### 平成14年度部門賞候補者の公募

機械力学・計測制御部門では毎年度、本部門における活動に貢献された方、功績・業績の顕著な方を下記の各賞により表彰しています。受賞者には部門長より賞状と記念品が贈呈され、ニュースレターおよび学会誌上でも発表されます。本年度は、下記の要領で受賞候補者を募集しますので、多数のご応募をお願いします（自薦・他薦いずれも可）。

#### 記

##### 1. 表彰名称・対象

###### 1. 1 [部門顕彰] 以下の5賞より6名以内

- (1) 部門功績賞：部門の発展、活性化に顕著な功績のあった個人
- (2) 部門国際賞：当該分野の国際的学術の発展に寄与、もしくは国際交流に業績のあった個人
- (3) 学術業績賞：当該分野の学術、出版などの業績が顕著な個人
- (4) 技術業績賞：当該分野に関連する技術・システムなどの開発業績が顕著な個人
- (5) パイオニア賞：当該分野の萌芽的研究、学術の発展性が顕著な36才以上の個人

###### 1. 2 [部門一般表彰] 人数を限定していません

- (1) 部門貢献表彰：特定の部門の諸活動に関して顕著な成果を挙げ、貢献した個人または団体

##### 2. 応募要領

A4サイズの用紙に下記要目を記入し、郵送願います。

- (1) 表彰名称
- (2) 候補者の所属・部署・氏名
- (3) 推薦理由（200～500字）
- (4) 推薦者の所属・部署・氏名・連絡先
- (5) 参考資料があれば添付する

##### 3. 提出先

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館5階  
(社)日本機械学会 機械力学・計測制御部門 表彰委員会

##### 4. 応募期間：2002年10月20日～12月22日

##### 5. 問い合わせ先

- ・表彰委員会委員長 小林正生(石川島播磨重工業)  
TEL：045-759-2861 FAX：045-759-2208  
E-mail：masao\_kobayashi@ihi.co.jp
- ・表彰委員会 幹事 有井士郎(鳥取大学)  
TEL：0857-31-5215 FAX：0857-31-0879  
E-mail：arii@ike.tottori-u.ac.jp

##### 6. 表彰時期・場所：D&D Conference 2032 懇親会の席上を予定しています。

## ●講習会企画委員会からのお知らせ 講習会企画委員会委員長 矢ヶ崎一幸（岐阜大学）

第 80 期の講習会企画委員会では、前期からの継続企画として次のような講習会の準備を進めております。

- (1) 機械力学・計測制御の最前線（ミニマムからのアプローチ）  
「それで十分線形解析，おこると怖いぞ非線形現象」  
担当：近藤孝広（九州大学），曄道佳明（上智大学）  
講習日：9月18日， 場所：金沢大学
- (2) 複雑系・非線形系のモデリングとシミュレーション  
担当：森下信（横浜国大）  
講習日：10月か11月頃を予定， 場所：日本機械学会
- (3) マルチボディダイナミクスの基礎と実用  
担当：清水信行（いわき明星大），曄道佳明（上智大学）  
講習日：10月から12月を予定， 場所：未定
- (4) 流体関連振動—その防止とトラブルシューティング—  
担当：稲田文夫（電力中央研究所），中村友道（三菱重工高砂研究所）  
講習日：11月か12月頃を予定， 場所：日本機械学会および大阪科学技術センター等

ぜひ，皆様の積極的な参加と関連各位へのご勧誘をお願い致します。

また，来年度に向けて「魅力ある講習会」を企画したいと考えております。企画に対しては，可能な限り皆様のご意見を反映していきたいと考えておりますので，是非，ご希望・アイデアを委員長〔矢ヶ崎一幸（岐阜大学）〕または幹事〔勝見政芳（三菱重工）〕までお寄せ下さい。

## ●出版委員会からのお知らせ 出版委員会委員長 西原 修（京都大学）

本年度の出版委員会では，昨年度までの教材作成を中心とした活動から，現在，ネットワークにおいて公開されている情報の中から，ダイナミクスに関連の深い Web サイトについて二次情報を収集する方向への展開を検討しています。昨年度までに栗田委員長（滋賀県立大学）のもとで作成された動的現象の CG アニメーションは <http://mechl.mech.usp.ac.jp/~hnw/visual/visual.html> において公開されています。何れもファイルサイズは 500KB 程度で，AVI ファイルとしてダウンロードできます。京都大学総合博物館の Web サイト (<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp>) には，開学直後の 20 世紀初頭にドイツから購入された機構模型の写真や，動作の様子を示す GIF アニメーションがあります。何れも動力学解析ソフト ADAMS によって作成された動画です。

アニメーションのみならず，実際の現象や実験を撮影した動画も教育用として効果的ですが，授業計画に合う映像が簡単に入手できるとは限りません。最近では，ビデオ画像からのキャプチャーにより，Web サイトで公開されている動画ファイルもあります。例えば，旧タコマ橋が 1940 年 11 月 7 日，わずか風速 19m/s の風で落橋した事故の映像は良く知られていますが，橋梁関係に限らず，機械力学等の授業においても共振，自励振動の補助教材として使えるでしょう。タコマ橋の動画ファイルを公開しているサイトはいくつかあり，ファイル形式や解像度，フレームレート等によりファイルサイズが異なります。これらが事前にまとめられていれば，ダウンロードしやすいのは確かです。

WWW では莫大な量の情報が公開されている反面，利用においては，書籍よりも閲覧者の責任に依存する比率ははるかに高く，信頼のおける二次情報が不足しています。このような背景から，出版委員会ではダイナミクス教育における Web サイトの利用に関連して，リンク情報の収集により，優れたコンテンツの発掘を試みようとしています。内容の確認と同時に，著作権等の観点から，教育活動等において無理のない利用方法についての検討も加えます。

## ●部門登録者データベースへの登録のお願い 広報委員 村上 新（島根大学）

機械力学・計測制御部門では「部門登録者データベース」を構築しております。このデータベースは、Web上でキーワード／氏名／所属先等により研究者の検索をすることができ、研究者・技術者間の情報交換の活性化の一助となることを目的としております。（一時期、稼動しているサーバの制限の変更等により使用不可能な状態となっており、皆様にはご迷惑をおかけしましたが、現在は稼動しております。）登録は任意で、皆様ご自身によってWeb上で登録していただくようになっております。有用なデータベースになるよう、未登録の方は是非登録いただきますようお願いいたします。データベースへの登録および検索はインターネットを介して皆様のお手元のコンピュータから行うことができます。部門のホームページ(<http://www.jsme.or.jp/dmc/>)のINDEXから「部門登録者データベース」をクリックするか、直接URL<http://www.jsme.or.jp/dmc/Net/>を指定してください。このページでは「登録・検索」のほか「趣旨と使用目的」についても詳しく書かれておりますので、登録のご希望いかんにかかわらず、ご一読いただくとありがたく存じます。登録は学会会員番号、氏名その他をフォームにしたがってご入力いただくようになっており、パスワードの設定により、登録後の内容変更もご自身で簡単に行えるようになっております。住所、電話番号等の個人情報はWeb上では公開されませんので、お気軽にご登録ください。なお、将来的には海外の研究者との連携も視野に入れ、英文でのデータ入力もお願いしております。また、登録時に部門のメーリングリストへの登録も可能となっております。併せてご利用ください。

以上、趣旨をご理解いただきますとともに、ご協力のほどを重ねてお願いいたします。

## ●部門広報活動に関するアンケートへのご協力のお願い 広報委員会委員長 神谷恵輔（名古屋大学）

機械力学・計測制御部門ではこれまでニュースレターを年2回発行し、部門登録順位1位および2位の会員の皆様のお手元に郵送してまいりました。しかしながら、近藤部門長のご挨拶にもありましたように、財政的な理由により電子発行化への移行の検討が必要な状況となってきております。今後のニュースレターのあり方ならびにホームページを利用した広報活動に関しまして、皆様のご意見を参考にしながら検討を進めさせていただきたいと存じます。つきましては部門の広報活動に関するアンケートを、ホームページにて行いますので、是非ご協力下さいますようお願いいたします。回答は9月末日までにお願いたします。ホームページをご覧になれない場合には、広報委員長〔神谷恵輔（名古屋大学）〕、または幹事〔中野 健（横浜国立大学）〕までお問い合わせ下さい。